

## 第2回 日本ヒスタミン研究会

### 【中枢におけるヒスタミンの作用】

座長 渡邊 建彦（東北大学） 二井 将光（大阪大学）

#### 演題 101

Immepip（ヒスタミン H3 受容体作動薬）の中枢性薬理作用

千葉政一、吉松博信、猪立山恵美、黒川衛、坂田利家  
（大分医科大学・内科第一）

#### 演題 102

ヒスタミンは脳幹のアセチルコリン作動性ニューロンに作用して覚醒を引き起こす

小山純正<sup>1</sup>、香山雪彦<sup>1</sup>、坂井一弥<sup>2</sup>  
（<sup>1</sup>福島県立医大・生理第二、<sup>2</sup>クロードベルナル大学・実験医学）

#### 演題 103

抗ヒスタミン薬の鎮静作用発現機構の解析：ヒスタミン H1 受容体占拠率と認知機能の関係

谷内一彦<sup>1</sup>、岡村信行<sup>2</sup>、境純<sup>1</sup>、伊藤正敏<sup>2</sup>、渡邊建彦<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>東北大学医学系大学院・細胞薬理、<sup>2</sup>東北大学・サイクロトロン RI センター）

### 【ヒスタミン受容体】

#### 演題 104

ヒト・アストロサイトーマ細胞におけるヒスタミン H1 受容体の細胞内移行に対する Ca<sup>2+</sup>/カルモジュリンを介した抑制性制御

菱沼滋、内木章恵、大嶋知一（明治薬科大学・田無校・薬理）

#### 演題 105

ヒスタミン H1 受容体の可視化

前山一隆<sup>1</sup>、朱秀紅<sup>1</sup>、望月貴年<sup>1</sup>、岡敬三<sup>2</sup>、藤田聡<sup>3</sup>  
（<sup>1</sup>愛媛大学医学部・薬理、<sup>2</sup>同附属実験実習機器センター、<sup>3</sup>アイシン・コスモス研究所）

#### 演題 106

ヒスタミン H1 受容体第3細胞内領域 Ser<sup>398</sup>の蛋白キナーゼ C によるリン酸化と脱感作

福井裕行<sup>1</sup>、藤本勝巳<sup>2</sup>、大田和美<sup>3</sup>、寒川賢治<sup>4</sup>、吉川潮<sup>5</sup>、荻野敏<sup>2</sup>  
（<sup>1</sup>大阪大学大学院医学研究科・情報薬理、<sup>2</sup>大阪大学医学部・保健学科、<sup>3</sup>大阪医科大学・小児科、<sup>4</sup>国立循環器病センター研究所・生化学、<sup>5</sup>神戸大学・バイオシグナル研究センター）

#### 演題 107

ラット脳における H1 および H2 受容体 mRNA の分布

— in situ ハイブリダイゼーション法による検討—

前田卓哉<sup>1</sup>、森川吉博<sup>1</sup>、上山敬司<sup>1</sup>、福井裕行<sup>2</sup>、仙波恵美子<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>和歌山県立医科大学・第二解剖、<sup>2</sup>大阪大学医学部・第二薬理）

#### 演題 108

ヒト・ヒスタミン H2 受容体遺伝子の細胞特異的転写調節

西毅、松本真規子、村上秀明、二井将光  
（大阪大学・産業科学研究所・生体膜分子）

#### 演題 109

非競合的 H2 受容体拮抗薬 T593 と H2 受容体結合の分子モデル

田城孝雄、松下正明（東京大学医学部附属病院・医療社会福祉部）

【末梢におけるヒスタミンの作用】

座長 福井裕行（大阪大学）岡部進（京都薬科大学）

演題 110

ヒスタミン合成酵素の誘導と胃潰瘍との関連性

遠藤康男（東北大学医学部・薬理）

演題 111

胃酸分泌の調節における一酸化窒素(NO)の役割 —内因性ヒスタミン遊離との関連—

加藤伸一、北村元宏、須川康成、竹内孝治（京都薬科大学・薬物治療）

演題 112

ビールの胃酸分泌刺激作用におけるヒスタミンの関与

佐々木規之、重田純一、高橋悟、岡部進（京都薬科大学・応用薬理）

演題 113

モルモット摘出心臓を用いた低酸素—再酸素化障害に対するヒスタミンの影響に関する検討

赤木正明、加納礼子、加藤紀子、菅瑞穂、永田祐介  
（徳島文理大学薬学部・薬理）

演題 114

モルモット心房筋単離細胞における細胞内カルシウムトランジェント、活動電位、カルシウム電流に対するヒスタミンの作用

吉本光洋<sup>2</sup>、保前英希<sup>1</sup>、服部裕一<sup>1</sup>、安田慶秀<sup>2</sup>、菅野盛夫<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>北海道大学医学部・薬理第二、<sup>2</sup>同附属病院・循環器外科）

演題 115

硫酸バリウム造影剤中のカルボキシメチルセルロースナトリウムによるアナフィラキシー

室井延之<sup>1,2</sup>、西堀正洋<sup>1</sup>、藤井隆<sup>3</sup>、山肩正和<sup>4</sup>、細井さち子<sup>2</sup>  
中矢直樹<sup>1</sup>、佐伯清美<sup>1</sup>、邊見公雄<sup>5</sup>  
（<sup>1</sup>岡山大学医学部・薬理、<sup>2</sup>赤穂市民病院 薬局、同<sup>3</sup>内科、同<sup>5</sup>外科、  
<sup>4</sup>山肩皮膚科クリニック）

演題 116

痒み関連行動惹起作用における histamine 感受性のマウス系統差

北川貫次<sup>1</sup>、安東嗣修<sup>1</sup>、長澤哲朗<sup>2</sup>、倉石泰<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>富山医科薬科大学薬学部・薬品作用、<sup>2</sup>和漢薬研究所・臨床利用）

演題 117

アレルギー反応によるマウスの痒み関連行動についての基礎的検討

中村伸昭、稲垣直樹、武曾敬一、田中宏幸、七條通孝、永井博式  
（岐阜薬科大学・薬理）

【ヒスタミンの生成・代謝】

座長 中野紀和男（名古屋大学） 大和谷厚（大阪大学）

演題 201

LPS 刺激した培養マクロファージ細胞株の TNF- $\alpha$  産生におけるヒスタミンの役割

長岡美絵、田中智之、市川厚（京都大学薬学部・生体情報制御）

演題 202

LPS および IL-1 $\beta$  による脳内ヒスチジン脱炭酸酵素の誘導

新美満洋<sup>1</sup>、山本由美子<sup>1</sup>、竹森洋<sup>2</sup>、川村知裕<sup>1</sup>、宇野敦彦<sup>3</sup>、大和谷厚<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>大阪大学医学部・保健学科・医用物理、<sup>2</sup>大阪大学医学部・医学科・分子生理化学、  
<sup>3</sup>大阪大学医学部・耳鼻咽喉科学）

演題 203

マウス T リンパ球によるヒスタミン生成機構の解析

久保ゆかり、中野紀和男（名古屋大学・生物分子応答研究センター）

演題 204

RBL-2H3 細胞培養液上清中に存在するヒスタミン産生増大因子の精製

白石宗重、平澤典保、大内和雄（東北大学薬学部・生化学）

演題 205

ラット門脈結紮—再灌流における組織中のヒスタミン含量の変動、およびヒスチジンデカルボキシラーゼ活性と mRNA レベルの変動について

福石信之、佐々木賢一、柳真由美、加納礼子、生駒弘造、赤木正明  
（徳島文理大学薬学部・薬理）

演題 206

担癌マウスにおける組織ヒスチジン脱炭酸酵素活性、ヒスタミンおよびメチルヒスタミン含量の変化

竹内義明<sup>1,2</sup>、西堀正洋<sup>1</sup>、魚本昌志<sup>1,2</sup>、中矢直樹<sup>1</sup>、  
岩垣博巳<sup>2</sup>、田中紀章<sup>2</sup>、佐伯清美<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>岡山大学医学部・薬理学、<sup>2</sup>第一外科学）

演題 207

ヒスチジン脱炭酸酵素の翻訳後プロセッシングおよびその代謝回転について

田中智之、根本憲一、山村英梨子、市川厚  
（京都大学薬学部・生体情報制御）

演題 208

ヒスチジン脱炭酸酵素(HDC)遺伝子プロモーター領域のメチル化と細胞特異的転写機構

大津浩、倉増敦朗、鈴木五月、渡邊建彦（東北大学医学部・細胞薬理）

演題 209

ラットヒスタミン N-メチル基転移酵素遺伝子の構造解析—転写開始点の決定—

竹村基彦<sup>1</sup>、北中純一<sup>1</sup>、田中達哉<sup>2</sup>、大和谷厚<sup>3</sup>  
（<sup>1</sup>兵庫医科大学・薬理学、<sup>2</sup>大阪大学医学部・共同セ、  
<sup>3</sup>大阪大学医学部・保健学科・医用物理）

【ヒスタミン遊離】

演題 210

小胞体 Ca<sup>2+</sup>-ATPase 阻害剤によるマスト細胞からのヒスタミン遊離活性について

手島玲子、澤田純一（国立医薬品食品衛生研究所・機能生化学部）

演題 211

培養肥満細胞からのアレルギー性ヒスタミンおよび GM-CSF 遊離の制御機構における細胞内 cAMP の役割

七条通考、稲垣直樹、木股正博、永井博弐（岐阜薬科大学・薬理）

演題 212

開口放出/Ca<sup>2+</sup>濃度・同時観察ビデオ顕微システムによる RBL-2H3 細胞 Ca<sup>2+</sup>動態の解析

小澤光一郎、大矢英夫、中岡小弓、升島努  
（広島大学医学部・総合薬学科・薬品分析化学）

演題 213

ラット腹腔肥満細胞の細胞膜電位におよぼす compound48/80 の影響

中山幸之、見尾光庸、亀井千晃（岡山大学薬学部・薬物学）